

『ポシエツト』運動、新名称決まる

ゆめポツケ

・キッズキャンペーン

ポシエツトをおくる運動の新しい名称が、このほど「ゆめポツケ・キッズキャンペーン」に決定した。新名称は『佼成新聞』紙上などを通して広く会員から募集され、約二百八十通の中から「さん(至)千葉教会」の『ゆめポツケ』が採用された。

同運動は、小・中学生を中心とした「子どもによる、子どものための運動」として、来年四月からキャンペーンが開始される。

ポシエツトに文房具やメッセージを入れて、紛争地域の子どもたちにもプレセントする活動は、「愛のポシエツト運動」(主催・難民を助ける会)として、一九九四年から昨年まで、四年間実施された。本会は、JEN(日本緊急救援NGOグループ)本会など五団体で構成が進める旧ユーゴスラビア・プロジェクトの一環として、現地の子どもたち(計十九万二千個)を贈ってきた。

しかし、運動を展開してきた四年間の間に、旧ユーゴの政治的、社会的状況が、一時の混乱から脱し、現地のニーズも緊急支援から自立自助のための支援へと移行。そのため、ポシエツトをおくる運動についても、本年次の運動を一時休止し、運動の方向性や配布国

名付け親は千葉教会

さん

の見直しなどを進めた。また、来年から、本会主催の活動として再スタートすることから、新名称の募集も行われていた。

『ゆめポツケ』は、来年四月十五日から八月三十一日までがキャンペーン期間とされ、本部倉庫の受け付けは、七月十五日から実施される。配布国は、従来の旧ユーゴスラビアに加え、新たにイスラエル、パレスチナ(ガザ地区)、レバノン、英国・北アイルランドが対象となる予定。詳しい実施要綱は、二月上旬、各教会に送付される。

同運動は、物を贈ること以上に、心を届けることを重視。『皆一つのいのちの中で生かれ、生きていく。だからこそ、つなぎ合い、認め合い、支え合っている』という仏教のメッセージを世界各地の子どもたちに伝え(国境を超えた布教伝道)、贈り手となる日本の子どもたちにもかみしめてもら

う(自らの心田を耕す)活動にしたいとしている。

また、こうした心を届ける活動が、紛争で傷ついた子どもたちへの励まし、対立する民族間の融和にもつながればと期待を寄せている。

新名称の選考は、主管する青年本部、渉外部渉外課のスタッフを中心に、各部署の代表によって実施された。親しみやすさや運動の性格を象徴していることなどを基準に、約二百八十通の中から十通に絞りこみ、最終的に『ゆめポツケ』が採用された。

名付け親となった「さん」は、「紛争下の厳しい環境の中で生きる子どもたちが『ポツケ』を手にとり、ほんのひとときでも素敵な『ゆめ』を見ることができたら」と思いつきました。また、平和への夢や願いを、受け取る子どもたちに伝えたい」と『ゆめポツケ』に託した願いを語った。

子どもによる、子どものための運動として来年四月からキャンペーンを開始